

# 陽だまり通信

## 今年も夏休み子ども体験教室を開催！

今年で第3回となる夏休み子ども体験教室。今回は板城公民館で全3回にわたって伝統的要素を取り込んだ創作活動を行いました。担当者・石井弥生からの報告です。

この講座は小学生を対象とし、夏休み中に学校では体験しにくい活動を提供することで子どもたちの世界を広げること、日ごろイベントに参加する機会を得にくい地域の子どもたちに活動の機会を提供する目的で行っている。



第1回は麦わらを使って

「ホテルかご作り」をした。当日は十九名の参加者があり、麦わらの扱いに悪戦苦闘しながらも、熱心にする子供たちの姿があった。各テーブルに作品の見本を置いていたことが、子どもたちの創作意欲を掻き立てたのか「どうやったら高く出来るのだろう」「2個目を作ってもいい?」「材料をもらって家でも作りたい」などと、とても意欲的だった。また、作り終えたときの達成感に満ちた子どもたちの顔が印象的だった。

第2回はエコバンドを組ん

での「飾りかご作り」をした。この日は2、3年生を中心とした参加者で、小さな手でバンドを組んで編むとい

う作業が難しかったようだ。エコバンドは滑りやすく固定しにくい。お手上げ状態の子供たちも何人かいたが、難しいところは指導協力者に手伝ってもらい、何とか完成させることができた。作業過程で大変な思いをしていた子どもたちも、形が見えてくる頃には歓声を上げ、それまでとは対照的に嬉しそうな顔でそれぞれの作品に満足している様子だった。

第3回は「お手玉作り」をした。参加者のほとんどが低学年で、針と糸を使った経験のある子どもはわずか3名だった。恐々と慎重に縫っていたため、2時間かかって1個完成させるのがやっとといった感じだったが、仕上がりは初めてとは思えないくらいなかなかのものだった。

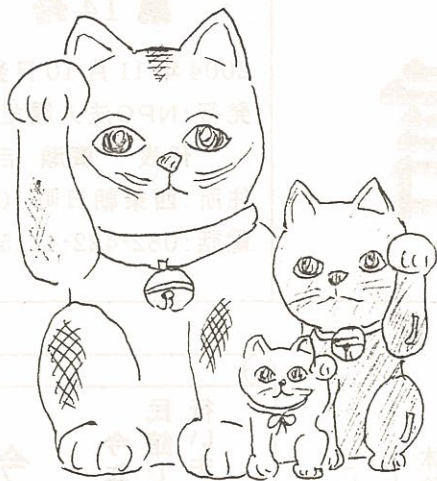
すべての講座を通して感じたことは、子ども達の前向きな姿勢と集中力、根気強さの素晴らしさである。



正直に言うと、最近の子どもは根気もなく飽きっぽいというイメージだったが、今回の講座に参加した子どもたちを通して、そんな思いは無くなった。今も昔も子どもというのは根本的には変わらない。もっと大人たちがしっかり子ども達と向き合って接すれば、いろんな可能性を伸ばしていけるのではないかと思う。

なお、今年の活動は、「子ども夢基金」の助成を受けて行われました。





## 姫が成長しています

佐古 さおり

### ワンポイント介護!

#### ～お風呂のような清拭を～

清拭の話の前に、まずは正しいお風呂の入りを。日本人は肩までお湯につかるのが好きですが、そうすると水圧は 280k にもなります。体にとっても負担がかかるということです。

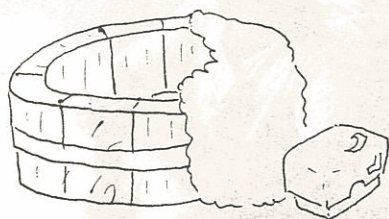
正しい入浴は、おへそまでのお湯で温度は 39～40℃。その状態で20分つかります。そうすることで血液の循環がよくなるのです。

さて、入浴できない人には、この「正しい入浴」に近い状態をつくります。人間一番汗をかく場所は足の裏、そして手です。ですから手(手浴)と足(足浴)、そして顔を洗うと、何とか入浴した気分になれるのです。

「清拭」の「清」は石鹸という意味です。入浴剤を混ぜて清拭する人がいますが、汚れを落とすという効果はありません。入浴剤は皮膚を保護しますが、同時に汚れも保護してしまうので逆効果です。石鹸を使ってきれいに汚れを落とした後に、乳液をつけてあげるのがよいでしょう。

「清拭」はされる方も結構疲れます。一日でするのは、おなか側か背中側どちらか一方にしておくといよいでしょう。

(お話は佐川育子先生。ヘルパー研修より)



フリフリのスカートにおさげ髪でままごとやお人形が大好き。これが私の描く女の子像なのだが、うしろを振り返ると、我が家の姫は私の想いとは正反対に日々たくましく成長中である。

なぜか、姫は自分を男の子だと思っていて、「年長の青組みになったら父さんと同じになれる。」と信じている。

そう言えば、赤ちゃん時代から活発で、発育も人一倍早く、気が付けば自分で玄関を開けて何度も脱走し

ていた。そして、現在も保育所から帰れば近所の子どもたちを引き連れて、愛車を走らせている。男の子も負けるくらい遊びっぷりで、「ガキ大将」の名をほし

いままにしている。

しかし、子ども社会も厳しいタテ社会でトラブルは日常茶飯事。だが、異年齢の子ども同士が、こうしたトラブルや遊びを通して問題の解決方法を模索したり、やさしさや思いやりを身に付けていっているようだ。

私たちは、毎日同じ遊びをしているように見えても、実は身近な自然界を利用して、微妙に違った遊びをしている。子どもの想像力はおとなの常識をはるかに超えていて驚かされる。こうして毎日、日暮れまで外遊びを満喫して、その日の眠りにつく。

思えば、この小さな姫のおかげで私自身の視野もずいぶん広がっている。子育てに私の方が育ててもらっているようにさえ感じる。

私は最近叱ることも多いが、必要以上に手は貸さない。姫自身の中にある可能性に賭ける気持ちが少しずつ高揚しているせいかもしれない。などと考える今日この頃である。

子育てバンザイ!





## サービスいろいろ ～NPO法人がってんクラブ～

お母さんに納得できる介護を！という思いで始めたデイサービス。  
今回は東広島市八本松町にあるNPO法人がってんクラブの取り組みを  
紹介いたします。

東広島市八本松町吉川にあるNPO法人がってんクラブ。山と田んぼに囲まれた自然豊かな土地に、その建物はあります。民家を改装して行われているデイサービス。代表の福永あやさんにいろいろ尋ねてみました。

—民家ですから落ち着いた雰囲気ですね。どうしてデイサービス事業をご自分で始めようと思われたのですか。

約3年前、母が痴呆になり介護の必要な状態になりました。当時いろいろなサービスを探し、あるグループホームに入所したのですが、母の問題行動に十分対応してもらえず、すぐに出る羽目になってしまいました。それからは家で、シルバーさんやボランティアさんの力を借りて何とか看てきました。考えてみると、母にピッタリの満足のいくサービスがないのです。それなら自分で作ってしまおうと思ったのです。

—がってんクラブでは現在何人の方が利用されていますか。

登録しているのは10人です。多い日で6人の方が来られます。一日10人までなら利用できます。痴呆の方がほとんどですが、リウマチの方もいます。介護度では要介護2～3が多いです。

—職員体制はどうなっていますか。

常勤2名、非常勤3名、調理担当2名です。

—こちらの特徴を教えてください。

入浴後に希望者にエステを行っています。エステの講習を修了したスタッフが行いますから、みなさんに大変喜ばれています。また、近々学習療法を取り入れる予定です。学習療法というのは、簡単な音読、読み書き、計算を行うことで前頭葉を刺激し、身辺自立の現状維持や痴呆症状の改善を図るものです。

—一日のスケジュールを教えてください。

朝来られたときの健康チェック以外は自由に過ごしていただきます。型にはめようとしませんが、痴呆の方にはよいのです。

—指示がないと利用者の方が何をしたらよいかと迷いませんか。

そういうことはまったくありません。みなさん、自分で

したいことがあるのです。そのしたいことに職員は丁寧につき合うようにしています。外出もよくします。熊野の筆の里や、東広島市美術館などを訪ねた後、外でランチということもあります。

—利用者と接する上で気をつけていることはありますか。

私は岡山の病院で痴呆の方との意思疎通法を一年間トレーニングしました。言葉かけや距離のとり方などに方法論があるのです。それら学んだことをスタッフ全員に徹底させています。また、岡山県笠岡市のエスポワール病院から、利用者のケアについて検査をもとにした科学的なアドバイスをいただいています。例えば、感情面がたくさん残っている人には感情に働きかけるケアをする。そのために美術館に行ったりするのです。

—一人一人きめの細かい取り組みをされていますね。痴呆の方には家庭的な雰囲気の中での個別ケアがよいようですね。

でもここは田舎ですから、都会好きな方には合いませんよ(笑)。ぜひご本人が見学してください。ご本人が気に入らなければ、いくらご家族やケアマネージャーさんが勧めてもダメですから。

—いろいろとありがとうございました。同じNPOとしてこれからもお互いがんばって行きましょう。

### NPO法人がってんクラブ

住所 東広島市八本松町吉川 2896

電話 082-429-0414





## 事務局だより

### 事務局の体制

9月から、事務局スタッフとして新たに1名が加わりました。満身に給与が支払えないことを承知の上での入局です。彼女のボランティア精神に感謝しつつ、ますます力を合わせてがんばっていききたいと思います。

新スタッフ・岡本浩子  
から一言

初めまして、こんにちは。9月から事務所で少しお手伝いさせて頂いております。とは言いましても、分からない事ばかりで、市川さんを始め皆様にご迷惑ばかりかけております(トホホ...)。まだ短期間ですが、「陽だまり」には何と魅力的な方々が多いのでしょうか！そのパワーを頂きつつ、私も微力ながらお手伝いさせて頂いておもうと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

### ヘルパー研修を実施

十月一六日(土)、佐川育子先生(広島ビジネス専門学校介護福祉学科主任教員)を招いて、ヘルパーの内研修を行いました。テーマは「清拭」。簡単な講義の後、参加者の背中をモデルに清拭の方法を実演で勉強しました。また、足浴・手浴を練習したりと、大変充実した研修会となりました。

今後もヘルパーの資質向上のために研修会を重ね、利用者の皆様に喜ばれる介護を目指していきたいと思えます。



### 行事案内

昨年まで3年間にわたり、教育委員会から「生涯学習講座」の委託を受けてきましたが、今年度は残念ながら委託を受けることができませんでした。そこで、それに代わる学習の場を次のように企画しました。どなたでも参加できますので、お誘いあわせの上、ぜひお出かけください。

日時：平成一六年十一月

二一日(日)

午後1時半～3時半

場所：東広島市民文化センター(サンスクエア)・

研修室2

テーマ：「ターミナルケア

—よりよい生き方のため  
のよりよい死に方—」

講師：佐川育子氏(広島ビ

ジネス専門学校介護福祉

学科学主任教員)

参加費：無料

### 事務所移転のお知らせ

陽だまり事務所が移転することになりました。平成一六年十一月二二日(月)より、新事務所にて業務を行います。現事務所は十一月一九日(土)までです。お間違えのないようお願いいたします。

#### 【新住所】

東広島市西条西本町二七・

三七高貴ビル二〇一号

【新電話番号】

082-422-4115

(以前と変わりません)

### 健康福祉まつり参加見送りについて

今年も健康福祉まつりが十月三〇日・三一日の両日、東広島市運動公園で生涯学習フェスティバルと共催で行われました。当初陽だまりも参加を予定していたのですが、バザーの会場が外のテントになったこと、人手不足で十分な準備ができて

いこと、陽だまりを周知するという目標はある程度達成できたことなどを鑑み、今年は見送ることにしました。遊休品を準備して下さっていた方、申し訳ありません。どうぞ、ご了承承ください。

### 編集後記

今年は相次ぐ台風に、ハラハラドキドキの連続でした。みなさまの所は被害などなかったでしょうか。新潟では地震災害が起こるなど、心落ち着かない日々が続きます。

さて、「陽だまり通信」でも、今号から編集者が交代することになりました。前編集者と違い、編集の知識も文学的素養も未熟。果たして、読みやすくわかりやすい機関紙ができるかどうか…。私の心も落ち着かない日々が続きますが、何とかがんばっていきます。どうぞ、よろしく😊